

町内食品会社との契約栽培でキャベツ産地育成

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

竜王町では同町山面で稼働を始めた（株）雪国まいたけ竜王パッケージセンター向けに、平成23年から加工業務用キャベツを推進しています。平成22年に4戸1haで生産されていた生産者を中心に作付推進したところ、昨年度は8戸3.3haまで生産が拡大できました。しかし、昨年度は平均収量が3,100kg/10aと目標の4,000kg/10aには達しなかったことから、今年度は目標収量の達成と作付面積の拡大、作業の効率化を目指して普及活動に取り組みました。

【普及活動の内容】

（1）収量向上を目指して

重粘土質土壌の多い竜王町では、何よりも排水性の良いほ場選定が重要であるため、①麦跡水田 ②可能な限り暗渠が整備されているほ場 ③麦の収量が高いほ場を選定するよう働きかけました。また、畝高を十分に確保し、畝間と尻水戸をしっかりとつなげることを徹底し排水向上に努めました。また、ブロードキャスターによる基肥施用ではほ場周辺部の施肥量が少なくなる傾向があり、手散布ではあまりにも作業効率が悪いという問題を抱えていました。そこで、町内の農家が所有する施肥機を共同利用し、作条施肥の普及推進を図りました。さらに、防除や追肥作業の効率化を図るために町内農家が所有するビークルの利用も検討しました。一方、課題であった雑草対策は、効率的な除草剤の活用と合わせて、条間と畝間の中耕培土を実施することで雑草害を最小限に抑えるよう技術改善しました。

（2）生産面積の拡大の取組み

加工業務用としては契約単価が比較的高く、大型コンテナの利用や地域内流通により流通コストを低く抑えることができ、収穫～出荷作業も簡素化できるため、目標収量の4,000kg/10aを確保すると、粗収益から直接経費を差し引いた金額は約12万円/10aが見込めます。また、JAにおいて畝成型板付きトラクタや移植機、全自動は種機の共同利用体制が整えられていること、県や町の推進事業が整備されていること等の情報を、改良組合長会議、農談会、営農相談の場を通じて提供し、作付け推進を関係機関とともに行いました。

【普及活動の成果】

基肥の施用改善については、町内農家が所有する施肥機の共同利用で91%のほ場で基肥の作条施肥が実践でき、均一で旺盛な生育が確保できました。排水対策の重要性も理解され、2月現在で4t/10a以上の収量が確保できています。また、平成24年度は6.6ha（前年対比200%）・13戸まで生産が拡大でき、次年度の作付け希望者もすでに現れていることから、地域の水田野菜として定着が図れたと考えられます。

